

【安中市】
校務 DX 計画

①校務 DX の現状と課題

令和 6 年度「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果によれば、本市の現状は、群馬県全体の平均よりやや低くなっている。

教職員と保護者間の連絡では、Google フォームを活用したアンケート調査や保護者連絡ツールを活用した欠席連絡など 9 割の学校が半分以上デジタル化を取り入れている。一方で校内での資料共有・情報共有のデジタル化については、半分以上デジタル化している学校が 5 割弱にとどまっている。

また、教職員と児童生徒間の連絡については、依然として紙ベースの業務が根強く残っており、改善の余地がある。

②校務 DX の課題解決、次世代の校務デジタル化

令和 7 年度より、県域共同調達で学校デジタル基盤(校務支援システムと汎用クラウドツール)の導入が検討されている。本市では令和 11 年度の参画に向けて検討を行う予定。

県域のデジタル基盤に参画することで、校内、学校と保護者間、学校と児童生徒間のデジタル化の基盤が整備されるとともに、県域で活用事例や先進事例が共有され、本市でもそれらを取り入れることで教員の多忙化解消等に資するためのデジタル活用を積極的に進めたい。

また、校務の効率化・ペーパーレス化の阻害要因である FAX や押印の見直しを進めるとともに、セキュリティポリシーの制定についても、県域の事例を参考として検討していく。